

F-24 加齢に伴う生活と適応能の変容に関する研究 第1報; II. 高年齢・高学
歴女性の健康状況

お茶女大・家政・文教：浅見千鶴子，富田守，○水野悌一，森下はるみ

目的および方法：高年齢・高学歴女性の健康状況の特性の一部を明らかにする目的で、東京女高師卒業者のうち、おもに関東・近畿地区在住者で明治31年度より昭和5年度までの卒業生約1,100名を対象として質問紙を郵送した。内容は自覚症状、趣味嗜好、生活態度に関するもので、これらと生活状況との関連性についても検討した。

結果：回収520通（回収率47.3%）、有効数515通であった。全体の30%以上にみられる不定愁訴としては、肩がこる、便秘しやすい、疲れやすい、根気がない、手足が冷えるなどであった。全体の46%は健康上の悩みを持つが、57.9%は現在何らかの体育活動を続け、72.2%は体育活動以外の趣味を持つことが明らかになった。嗜好品のうち酒は9.9%、たばこ3.5%、コーヒーは24.9%が好むと答えている。就寝時間は全対象者の65.6%が午後10時から11時であった。自覚症状と生活状況との関係では、大略次のような結果が得られた。①未婚者は離婚者より一般に不定愁訴の数が少ない。②既婚者と未・離婚者としては前者にやや自覚症状の多い傾向がある。③夫と死別した者では夫の健在な者より身体上の訴えが多い。④子どものない者では子どものある者より身体上の訴えが多い。⑤独り住いでは同居の場合より全般的に訴えが多い。⑥集合住宅の居住者では、胃の不快感を感じない者が1個建住宅居住者に比べ極めて多い。⑦81歳以上では足のふらつき、眠い、根気がないなどの訴えが他の年代より多い。⑧体育活動を行っている者では行っていない者の数倍の不定愁訴回答率をみた。⑨たばこや酒をのむ者に特有な自覚症状はない。⑩就寝時刻が遅い群では食欲不振、胃の不快感、便秘などが多く、健康上の悩みも多い傾向が認められた。